カイトとリュウさんの

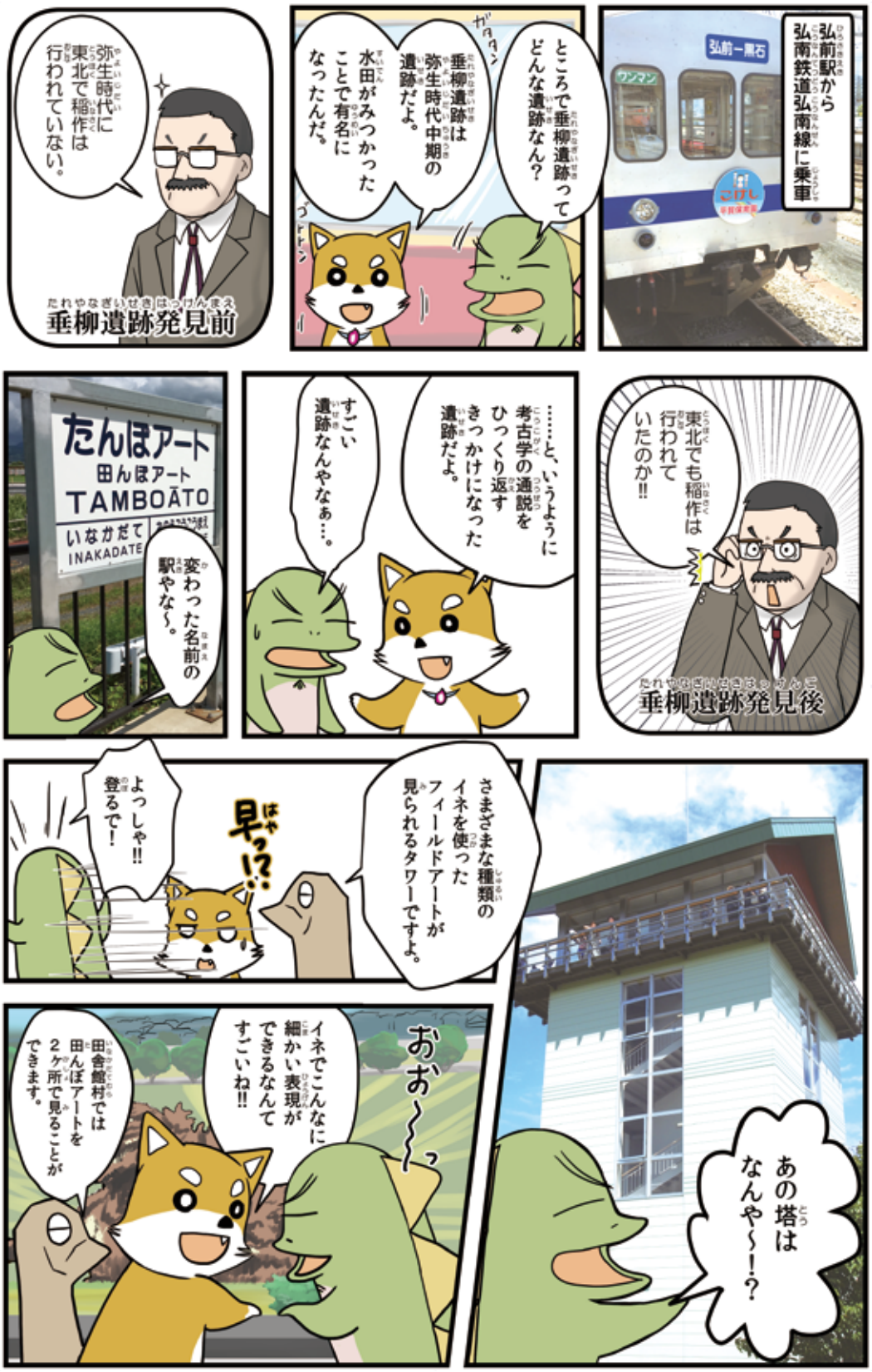
遺跡へ行こう

その5 弥生米の終着駅 垂柳遺跡

弥生博のカイトとリュウさん

カイトとリュウさんは、大阪府立弥生文化博物館の展示品から飛び出した、博物館のキャラクター「館キャラ」です。本冊子では「弥生遺跡」や各地の「博物館」を訪ねて日本中をかけめぐります。二匹？の活躍にご期待ください！

本冊子は、文化庁からの補助金を受け、日本全国の代表的な弥生遺跡を紹介するために制作しました。



日本列島は、いまでこそ「日本」というひとつの国にまとまっていますが、弥生時代にはたくさんのクニがそれぞれの地域で独特な文化を築いていました。

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう

本冊子で紹介する遺跡を訪れれば、出土した遺構や遺物はもちろん、遺跡の周りの自然や地形環境、気候のほか、遺跡の立地など、自分たちの地域とは異なる部分に気が付くはず。

島国ならではの多様な風土が生み出した、特色豊かな弥生文化。それはいまの日本文化の源流となるものです。
時には、悠久の時を超え、遥か先人たちの叡智に想いを馳せてみませんか。

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう

▲米こめくん

こんにちは！　ボクは、「田んぼアート」から生まれたお米の妖精。みんなからは「米こめくん」って呼ばれてるんだ。遠く大阪から来てくれたカイトとリュウさんに、ボクから垂柳遺跡のことや、田舎館村の取り組みを紹介するね！

▲田んぼアート　風と共に去りぬ（H27）

▲スターウォーズ（H27）

田舎館村って、青森県で一番小さな村なんだ。いまは「田んぼアート」の村として全国的に知られているけど、じつは昔から、「田舎郡」とか「田舎の庄」と呼ばれ、お米作りがさかんな土地として有名だったんだよ。その証拠に、一〇〇〇㎡あたりのお米の収穫量では、なんと一二回も日本一になってるんだ。えっへん！

ほかにも、この村には江戸時代の終わり頃に書かれた「耕作噺」という農業指導書が伝わっている。その本には、津軽地域の寒冷な気候に適した稲の名前が書かれてたんだけど、これを知った村の人達は、三〇年ぐらい前から、いまも残っている稲の品種を集めはじめたんだ。その中には葉の色が濃い紫色や黄色をした「古代米」があった。そうだ、この稲で田んぼに絵を描いてみよう、ってことで始めたのが、「田んぼアート」なんだ。

▲耕作噺

最初の田んぼアートは、紫色（紫稲）と黄色（黄稲）に緑色（観稲）を加えた三色で始まったんだけど、今では白色やオレンジ色など七色一二品種の色を使って描いているんだよ。もちろん、このお米は、全部食べることができるんだ。すごいでしょ！

▲黄稲（黄色）とゆきあそび（白色）

▲ゆきあそび（白色）と紫稲（紫色）

最北の弥生水田

こんな小さな村なんだけど、ある大発見があったんだ。昭和五六年から五八年の発掘調査で、東北地方で初めて弥生時代中期の水田跡が発見されたんだよ。

この発見は、当時の考古学や農学の研究者に大変な驚きを与えた。なぜかって？当時の人達は、「本州最北の青森県に弥生文化を持つ遺跡なんてあるはずがない。ましてや、お米作りなんかしているはずがない」って思ってたからなんだ。

例えば、昭和三三年に初めてこの村で東北大学のチームが発掘調査をしたときのこと。じつはこの時すでに、稲の籾痕が付いた土器や、炭化米が発見されてたんだ。だけど、当時は「お米って、運べますよね。この地に住んでいた人達は、お米を知っていたかもしれない。食べていたかもしれない。でも、作っていた証拠はないですよね」って言われたみたいだよ。だからこの発掘の後も、垂柳遺跡は、弥生文化の影響を受けながらも、縄文文化の影響を強く残している遺跡として扱われてきたんだ。

じゃあ、どういうものが発見されたら、お米作りを行っていた遺跡として認めて

もらえるのかって？

それはね、発掘調査で当時の田んぼのあとが発見されること。これこそ「動かぬ証拠」だよね。ほかにも、田んぼを耕作するためのクワやスキなどの農具の存在もお米作りの証拠になるんだ。

垂柳遺跡の発見者たち

垂柳遺跡の弥生水田が発見されるまでには、四人の重要な人物がいるんだ。これらの人達のことを紹介しながら、遺跡の歴史をちょっとふり返ってみるね。

実は、垂柳遺跡から発見されたと思われる土器や石器は、明治時代後半に出版された『日本石器時代人民遺物発見地名表』にすでに掲載されてたんだ。この場所に遺跡があることは古くから知られていたんだね。

そして昭和一〇年代前半には、村を通る道路を造るときに、たくさんの土器や石器が発見されている。これらの遺物は、旧制第二高等学校（現東北大学）の標本室や兵庫県の辰馬（たつうま）考古資料館、久原コレクションなど、いろんな所で保管されていたらしいけど、それらの土器や石器を観察して回ったのが、当時、旧制第二高等学校の学生だった伊東信雄先生なんだよ（後に東北大学教授）。

先生は、垂柳遺跡から発見されている土器が縄文土器とは違うことに気づいたんだね。この土器を「田舎館式土器」と名づけ、水田稲作を伴う弥生文化の土器と考えた先生は、昭和三三年に垂柳遺跡の発掘調査をしたんだ（赤○：伊東先生）。この発掘に参加していたのが、村で中学校の先生をしながら考古学を勉強していた工藤正先生（青○：左）と、地質学を勉強していた八木沢誠次先生（青○：右）。ふたりの協力もあって、この時の発掘では、たくさんの土器のほか、二〇〇粒以上の炭化米がみつかったんだ。伊東先生はこれを「考古学上の重大な発見である」として、垂柳遺跡でお米作りが行われていた、と発表したんだけど、やっぱり、「よそで作られたお米が持ち込まれたんじゃないか」という反対意見は根強く残っていたんだ。

▲昭和 33 年の発掘調査風景

でも、ついにこの論争に終止符が打たれることになる。それは、昭和五六年のこと。国道一〇二号バイパス建設に伴う試掘調査で、小さな方形をした奇妙な遺構が発見された。でも、最初は誰も田んぼだとは思っていなかったんだよ。

どうしてかって？　みんな弥生時代の田んぼといえば、静岡県の登呂遺跡から発見されたような、矢板で囲まれた大きな田んぼを想像していたからなんだ。

ここで登場するのが、当時、弘前大学で考古学を教えていた村越潔先生。先生は県のえらい人から、「垂柳遺跡で発見された方形の遺構は弥生時代の田んぼであるかどうか」って質問されたんだ。これは、水田稲作が弥生時代のうちに本州最北の青森県まで伝わったのかどうか、というとても大きな問題に関わる質問だよね。きっと村越先生も、すごく迷ったと思うよ。でも、先生は「垂柳遺跡の方形の遺構は、弥生時代の水田跡である」とし、本格的な発掘をするべきと決断したんだ。そして昭和五七年・五八年には、「垂柳遺跡発掘調査会」を主導して、六五六枚以上の水田を発見したんだよ。

ボクたちは、学生時代から垂柳遺跡を弥生時代の遺跡と信じて研究してこられた伊東先生を「執念の人」、地元で地道に資料収集をしてきた工藤先生・八木沢先生を「努力の人」、迷いをはねのけて発掘調査をした村越先生を「決断の人」として尊敬しているんだよ。

▲発見された水田跡
（奥にみえる山が、津軽富士といわれている岩木山）

定説を覆した発掘調査

昭和五七年・五八年の発掘では、バイパス路線内を長さ八〇〇m・幅四〇mにわたって調査したんだ。その面積は、約三二〇〇〇㎡にもなるんだよ。この発掘調査でわかったことをまとめてみよう。

◆発見された水田跡は、遺跡の北側を流れる浅瀬石川の洪水によって二次堆積した火山灰に覆われていた。

◆水田跡は、長方形を主体とした形状で六五六枚発見された。水田跡は、畦畔や水路・大畦で構成され、整然と区切られていた。

◆水田一単位の面積は、最大で二二一㎡、最小で一㎡、平均で約八㎡である。

◆畦畔は、土を盛り上げて作った小規模で貧弱な手畦である。

◆水路は、排水を重視し、給水も兼ねた簡単な素掘りのものである。

◆大畦は、水田面より少し高く、現在の農道的な役割を持ち、そこから田舎館式土器や石器、炭化米等の遺物が多数発見された。

◆水田面には、大人から子供までの足跡がたくさん残されていた。

◆プラント・オパール分析調査によれば、水田の耕作期間は、五〇年～二〇〇年程度と推定される。

などなど、かなり具体的に弥生水田の姿が見えてきたんだよ。

▲整然と区切られた水田跡

▲水田跡に残された足跡

▲発見された炭化米

国史跡へ向けて

こうした重要な調査成果を受けた田舎館村は、「垂柳遺跡は、後世に伝えるべき重要な遺跡である」と判断し、国の史跡指定に向けて動きだしたんだ。

まず昭和六〇年に議員団を組織して文化庁へ陳情しに行ったんだ。文化庁の指導を受けた村は、この弥生水田を耕作していた人達の住居やお墓の発見を目的として、昭和六一年から平成七年まで発掘調査をしたんだ。平成九年には青森県教育委員会もこの遺跡を調査してるよ。

これらの調査によって、たくさんの土器や石器はもちろん、垂柳遺跡では珍しい木製品まで発見されたんだよ。火をおこすための道具である「火きり臼や杵」、石斧の「柄」、取っ手の先端に熊の頭をかたどった漆塗りの「柄杓」、作りかけだったり、壊れて捨てられたクワなど、様々な木製品が発見されたんだ。

また、ほかの地域との交流のようすもみえてきたんだ。垂柳遺跡で出土する土器の形や文様から、津軽半島や下北半島の海岸部の遺跡との交流が強いことがわかってたんだけど、ほかにも北海道の影響を受けたものや、福島県の南御山式土器などが含まれてることがわかってきたんだ。さらに、石器石材の産地を分析すると、石斧や黒曜石の矢じりが北海道の白滝産のものだったり、管玉が新潟県の佐渡島産だったりして、かなり広い交流範囲を持っていることがわかってきたんだよ。

弥生水田の範囲確認も進んで、約一三

▲柄杓の取っ手の「熊」

▲火きり臼

▲南御山式土器出土状況

▲石斧装着柄

ぐらいの広さにわたっていることもわかってきた。そしてついに、平成一二年四月一一日に国の史跡として指定を受けることができたんだ。

遺跡の保護・保存と周知・活用

平成一〇年と一一年には垂柳遺跡と関連性が非常に高い、高樋（3）遺跡を発掘調査したんだ。その結果、垂柳遺跡と同じ弥生時代中期の田んぼや水路、土器や石器が発見されたんだよ。

そこで村では、田んぼの上に埋蔵文化財センターを建設することにしたんだ。このセンターのテーマは、「みれる・あるける・さわれる」。遺跡の土器や石器を「みれる」。発掘された田んぼの上を「あるける」。本物の土器に「さわれる」。弥生時代を体感できる施設なんだ。

一方、史跡になった垂柳遺跡の方では、北側を保存・保護地区とし、南側半分を周知・活用地区にすることにしたんだ。「遊稲の館（ゆうとうのやかた）」という施設を拠点にして「いね・どろ・わら」をテーマに、田植えや稲刈りなどの「稲作体験」、田んぼの中で泥まみれになる「どろリンピック」などのほか、古代米の収集や作付けをしたり、稲わらで正月用の「リース飾り」を作ったり、いろんなをことをやってるんだよ。

「稲文化の村」田舎館、そして「弥生米の終着駅」垂柳遺跡、みんなが来てくれるのを待ってるよ！

▲田舎館村埋蔵文化財センター

▲露出展示室（センター内部）

▼遊稲の館

▲稲作体験（田植え）

▲どろリンピック

文化庁
平成二八年度文化庁
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
【カイトとリュウさんの 遺跡へ行こう
その5　垂柳遺跡】
企画・編集：館キャラ連携プロジェクト実行委員会
大阪府立弥生文化博物館
マンガ：宮野ミケ
テキスト：田舎館村教育委員会　武田嘉彦
発行日：平成二八年一〇月一八日
印刷所：株式会社中島弘文堂印刷所

田舎館村埋蔵文化財センター
田舎館村博物館

住　所：〒038-1111
青森県南津軽郡田舎館村大字
高樋字大曲 63
電　話：0172 － 43 － 8555
開館時間：10 時 00 分～ 17 時 00 分
（入館は 16 時 30 分まで）
休館日：月曜日（祝日の場合は、その翌日）
年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

http://www.vill.inakadate.lg.jp/_common/themes/inakadate/maibun_hp/top/top.html

【交通アクセス】
（自動車）青森市より 60 分　黒石 IC より約 10 分
弘前市より 20 分　JR 川部駅より約 15 分
（電車）　弘南鉄道田舎館駅より徒歩で約 15 分